

# 実際の教員採用試験に即した教職志望学生への具体的支援(2)

—2次試験に向けた支援と全体考察—

川原 誠司

宇都宮大学共同教育学部教育実践紀要 第10号 別刷

2023年8月31日



# 実際の教員採用試験に即した教職志望学生への具体的支援(2)<sup>†</sup>

## —2次試験に向けた支援と全体考察—

川原 誠司\*

宇都宮大学共同教育学部\*

本稿は、栃木県の小学校教員採用試験を受験する学生に対する具体的支援を行い、その意義について考察するものであり、前報の続きとなる。X年7月以降の2次試験に向けた支援ならびに学習会全体について参加者の振り返りを基にした意義の検討をおこなう。論作文、集団討論、個人面接という3つの試験課題について質・量ともに学生個人や学生集団が行うものよりも高めることを意識して実施した。参加者への振り返りの質問紙の結果からは、本学習会の意義を感じており、このような機会が必要であることがうかがえた。現状の大学教員の職務や評価状況において、このような支援にまで教員の手が届くかは実際には非常に難しいことであるが、教員就職率という現実的な問題において現実的な対策が必要なことは示唆された。

キーワード：教員採用試験，教員就職率，具体的支援

### 1. 2次試験に向けた実践の概要

本実践に取り組んだ背景や学習会の具体的な進め方、1次試験までの様子については、前稿（川原，2023）に記載した。前稿での報告どおり、1次試験までの対策によって学習会参加者4名全員が合格し、次の2次試験の準備に取り掛かった。

栃木県の小学校教員採用試験の2次試験については、「論作文」「集団討論」「個人面接」の3つが課されていたので、それをバランスよくおこなうことを考えた。同時に、これら3つについては大学の就職支援室でも対策をおこなってきた、また進行形でおこなっていた。そのことも勘案しなら、ただし、学生同士で実施することが主たる方法であるということを知っていたので、前稿（川原，2023）で述べたように、本学習会では教員からのより俯瞰的で

客観的な指標を伝えることを意識した。

2次試験に向けても1次試験同様に継続性を大事にしておこなうことを意識した。対策期間は約6週間ほどであったので、最初の4週間は週に2回は行い、直前の2週間は週に4回実施した。これらの中で3つの内容を混ぜて実施した。

論作文については、まずは過去問を振り返って解いてきてもらったものを、全員分のコピーを取って全員に配付した上で「基本的な文章の組み立て方」や「教員採用試験としての書き方や表現の仕方」といった点についてそれぞれの答案に対してコメントした。その際に、目安となるように筆者による答案例も示した。最後のほうでは模擬問題演習を5回おこなった。予想問題を出し、その場で試験時間である50分で実際に解いてもらい、そこで前述と同じコメントをするという方法であった。直前には再度出題パターンの確認と下書き方法の確認を行った。

集団討論については、就職支援室の支援のもとで学生同士で対策していることだったので、本学習会ではそれほど実習しなかった。ただし、どのようにすればよいのか学生自身が相当迷っていたので、学習会において集団討論の出題パターンや基本的な注意事項について講義し、少しの実習をおこなった上で、学生同士の対策に意識的に臨んでもらうように

<sup>†</sup> Seishi KAWAHARA\*: Specific support for students who aspire to be teachers corresponding to real teacher employment examination (2): The support for secondary examination and general discussion

Keywords: teacher employment examination, teacher employment rate, specific support

\* Cooperative Faculty of Education, Utsunomiya University

(連絡先: kawahara@cc.utsunomiya-u.ac.jp)

した。

個人面接については、その中でおこなうとされる「場面指導」について参加者が大きな不安を抱えていることが分かった。そこで、集団討論と同様に出題パターンや基本的な注意事項について講義した。面接は学習会の中で綿密に行い、様々な出題パターンや内容を網羅する形で質問項目を作成し、実際の形式を模して実施した（面接員は筆者1人になるが）。面接の様子をビデオ撮影し、全員分のものを再生しながら、話の内容のみならず話の聴き方や話し方、話す声の明瞭さなどの点についても指摘をおこなった。これらの点は以前に教員採用試験対策として実施した公的スピーチの実践から援用したものである（川原，2018a；川原，2018b）。

## 2. 2次試験終了時での振り返りからの検討

X年8月19日～8月20日で2次試験がおこなわれ、その直後のX年8月23日に振り返りをおこなってもらった。結果をTable1に示す。

質問1では実際に受験してみての手ごたえを自己評価してもらった。3つの試験について、どれも最高評価ではないにしても、最低評価でもないという参加者の性格も多分に加味された自己評価であるように筆者には感じ取れた。

質問1で設定した論作文の3段階評価と集団討論ならびに個人面接の5段階評価は栃木県が設定していたものであり、栃木県が公開していた評価基準として、論作文については「2名からCの評価を受けていない者」となっていた。また集団討論ならびに個人面接については、8名の面接委員の中から「DまたはEの評価を受けていない者の中で、面接委員の4名以上からAまたはBの評価を受けた者」もしくは「1名のみDの評価を受けた者の中で、面接委員の6名以上からAまたはBの評価を受けた者」となっていた。これらの基準を踏まえて、学習会参加者の思いとしては「ギリギリでも何とか合格できたのではないか」という思いを込めた評価の仕方に思われた。

質問2では実際に活かされたことを確認したが、論作文では模擬演習時と同じような問題が出たことが述べられたり、校正や時間配分などが活かされたりといった感想が多かった。個人面接でも練習したことで慌てなかったという旨のことが述べられていたし、学生同士の練習とは異なる雰囲気でおこなえ

たということで筆者が介在しての練習に意義があったことを述べる参加者もいた。これらのことから、学習会の内容はおおむね効果的だったことがうかがえる。

質問3ではもっとやっておけばよかったものを訊いたが、ほとんどが場面指導と集団討論について触れていた。もっと早くからやっておけばという感想があったので、これは今後同様の学習会を行う際には留意すべきことであろう。また、本番では練習のやり方と雰囲気異なったという感想もあったが、振り返った後に直接話を訊いたところ、大学での学生同士の練習ではやり方がだんだんと固定化してしまい、試験当日は他大学の学生による別のやり方で進んで戸惑ったということであった。筆者からすると予想されたやり方ではあったが、集団討論の練習は就職支援室でおこなわれたものにほぼ任せていたので、自分たちのやり方で固定せずに、様々な状況を想定して練習しておく必要があると感じた。

質問4で学習会の意義を数値評定してもらったが、評定値5が3名で評定値4が1名と高評価であった。質問3の回答のように改善すべきところはあると思うが、このように具体的に支援する機会がこれまでには少なかったと思われるので、参加者にとっては効果的だったと強く思ってもらえたと感じる。

## 3. 2次試験の結果

X年10月14日に合格発表が行われた。この時の栃木県小学校教員採用試験の受験状況ならびに2次試験の合格者については、時事教育出版社のサイトによると（[https://book.jiji.com/wp-content/uploads/2023/01/20230120\\_2022bairitsu.pdf](https://book.jiji.com/wp-content/uploads/2023/01/20230120_2022bairitsu.pdf)），1次試験合格者361名に対して、2次試験合格は231名となっていたので、130名ほどが不合格ということになる。最終的には当初の受験1次試験受験者740名に対しては3.2倍という倍率であった。

学習会の参加者は、4名中3名の合格という結果だった。筆者はまず希望が叶わなかった不合格者1名とのやり取りに専心し、本人の思いや今後のことについて丁寧に聴いた。本人だけではなく筆者も不合格という結果は意外で非常に残念な思いであったが、本人が次のことに前向きであったので（諸事情により次年度からの常勤的就職を目指す必要があった）、そのことについて応援した。世間では教員採用試験の低倍率について批判されるが（幻冬舎

Table1 X年8月23日時点での振り返りの回答

1. 実際の採用試験 自分の行ってみたい結果（到達度）の予想を率直に教えてください。

作文（論作文） [A B C の評価] ●B/B/B/B  
 集団討論 [A B C D E の評価] ●C/C/B/B  
 個人面接 [A B C D E の評価] ●B/B/B/B

2. 実際の二次試験を受けてみて、学習会でやった内容や方法など活かされたことを箇条書きでよいのでお書きください。

- 論作文で「個別最適な学び」が出た。集団討論がうまくいかなかったことや緊張していたこともあり、個人的にはあまり自信がないのだが、何回も4人で時間を計って練習したのはすごく身になったと思う。個人面接では想定していたような内容（動機、教員に必要な資質能力など）を聞かれることがほとんどだった。近くの教室で面接を受けた友人は、「面接官相手だと学生相手の練習と全然違うね」と言っていたが、先生に面接を見ていただいたおかげで、「こういう雰囲気だろうな」となんとなく心構えができていたように思う。
- 論作文では、「個別最適な学び」が出た。4段落構成や分量等でうまくでき、50分で行う模試が本番での自信につながった。面接では、自分の強みと課題について質問された。面接では圧迫的な感じはなく、終始和やかな感じだったので、学習会での練習通りの気持ちで臨めた。場面指導では相手の気持ちをまずは聴こうという姿勢ができた。集団討論では、相手の話を聴きながら自分のカードを出していくという気持ちで臨めた。
- 場面指導でしっかり聞くことや伝えることは伝えるなどを意識してできた。面接でも集団討論でも、ゆっくりはっきり話すことを意識してできた。50分で論作文を書くことをしていたため、時間的には困らなかった。論作文で「個別最適な学び」が出た。
- 論作文では、構成をしっかり考える練習や時間配分を意識した練習をしたことで、本番では落ち着いて取り組むことができた。集団討論では、学習会での討論で、気をつけることや発言回数を意識することが本番でも生かすことができ、役に立った。個人面接では、録画して客観的に自分を見ながら練習をしたことで、内容だけでなく、音量や話し方、姿勢なども考えて準備することができてよかった。本番では試験官の方々からこやかな雰囲気だったので、その雰囲気もしっかりつかみながら自分の想いや考えを話すことができた。練習からどんな雰囲気でも自分らしく話せることが大切ではないかと感じた。

3. もっとこういうものをやっておけばよかったということがあればお書きください。

- 集団討論や個人面接の際の荷物の置き方。特に集団討論は、荷物に関して指示が全くされなかったのでどうすればよいか戸惑ってしまった。
- 場面指導については教えていただいた内容に関して大変勉強になりました。もう少し早くから行っていたら、試験直前のメンタルが保てたかもしれません。
- 集団討論について、支援室での対策練習の中でやり方が決まってしまう、本番では練習のやり方と雰囲気が異なったため、様々なやり方で練習しておくと本番も対応しやすいと思った。
- 場面指導をもう少し丁寧に準備する必要があると感じた。本番は保護者対応で、合っていたのか納得のいかない部分があったため、誰が相手でも対応できるようにすることが大切だと思った。

4. この学習会での学習が実際の二次試験にどの程度活かされたか、下の中から当てはまるものの数字を選んでください。

(5 とても活かされた 4 だいたい活かされた 3 少しは活かされた 2 あまり活かせなかった 1 ほとんど活かせなかった)

●4/5/5/5

GOLD ONLINE, 2021), このように相応の学びをしたと筆者には感じられても採用段階で願い叶わない者がいる現実がある。その一方で、学校現場では教員の欠員が生じている報道を見ると (NHK,

2022), マッチングがうまくいっていない状況を懸念する。このままだとますます受験者が減るのではないかと危惧している。

一方で、今回の2次試験の様子を参加者から丁寧

に聴きとり、今回不合格になってしまった学生の評価に影響しそうな点を十分に検討した。この考察については、正答率を算出できる筆記試験と異なり、客観的評価として可視化しにくいいため、正確なものとしてここで詳細に記載することはできない。個人的な印象として、集団討論や個人討論における試験官の受け取り方により注目する必要があるということのみ挙げておく。この点については次年度以降への課題となる。

## 4. 全体考察

### 4.1 参加者の振り返りからみた本学習会の意義

最終合格が発表された約1か月後のX年11月17日に、学習会に関して全体的な振り返りをおこなってもらった。その結果をTable2に示す。

質問1は、学習会を設定した当初の3つの目的について参加者がどの程度できたかを聞いたが、ほとんどすべてにおいて評定5と回答された。継続した参加者であったので、筆者が意識していたことを参加者も重要と感じて続いていたからこそその結果といえる。その点では、今回のような学習会は、少なくともそれをしっかり求めて動ける学生においては非常に効果的に働くことが示唆された。

質問2は学習会で使用したC-learningでの情報についての役立ち度を訊いているが、全員から評定5という回答があった。出題の答えをただ記憶するようなことだけでなく、それに関連した動画やサイトを見たり、情報を再確認したりする点において、C-learning上へ情報を一手に格納しておくことは非常に有効であることがうかがえた。

印象に残った情報の記述にもあるが、音楽や体育、家庭の実技などの動画は、文字情報のみではつかみにくい部分を大幅に補うことができるので、特に効果的であると感じた。教育法規や答申などの文言、あるいは面接のポイントなど参加者が特に苦手としているものについても、参考となる情報をまとめたので、自習時にも参考になったと思われる。

参加者にとっても単に情報が格納されているだけでなく、自らが学んだ内容と紐づけて情報が提示されているので、自分の復習のタイミングで再確認することができたのであろう。

質問3は、今後の同様の学習会を開催するときの参考になることを聞いた。質問3-1では引き続き保持したほうがよいところと改善したほうがよいところ

を聞いた。保持したほうがよいところとして多く挙げられていたのは「雰囲気」という点であった。言葉は同一ではなかったが、「ワイワイ楽しく」「自由に発言ができる」「温かい」「発言し合える」「緊張しすぎない」といったものからは、今回のような相互にやり取りできる雰囲気の重要性が示唆された。

長時間にわたる学習ということもあり、本学習会においては休憩時間に茶菓を皆でとって楽しく話す時間も設けた。「お茶会の交流」という記述もあったが、このような時間があることが参加者にとっては精神的にも大きな効果をもたらしたと思われる。

一方で、質問3-2で変えたほうがよいという点について質問したが、一人の参加者が終了時刻の遅さについて触れていた。学生と教員の日時調整の結果、開始時刻が夕刻になることがあり、学習会自体は一定の時間がかかるため夜遅い時間になることもあった。遠距離電車通学の学生だったが、幸い同じ方向に複数人で帰る形だったので大きなトラブルは生じなかったが、安全面を鑑みると、次回以降は終了時刻についてより一層の配慮をする必要がある。

終了時刻以外の改善点については、筆者が質問文の中にも触れていたことだったが、2次試験の対策を早期に展開しておくことを多くの参加者が述べていた。筆者としては就職支援室で実施しているのでそこで学ぶのだろうと思っていたが、参加者の話を聴いていて、「具体的なやり方」については丁寧には教わっていないことがうかがえた。基本的なやり方を押さえてそれを基に客観視しながら練習していく期間を長くしたり、バリエーションを増やしたりすることが次への大きな課題となろう。

質問3-3では今回の学習会に参加するために参加者に必要な要素を聞いた。表現の文言は少々異なっているものの、おおむね次の3つのカテゴリーにまとめることができよう。

まずは「真剣、熱心、他人任せではない」といったような主体性の要素である。支援するといってもやはり当の学生に学ぶ意欲がなければ成功にはつながらない。次に、「コツコツ、諦めない」といったような継続性の要素である。これらの2つからは、どれだけよい機会や環境を準備したとしても、当人に学ぼうとする意欲や学び続ける意思がなければ無駄になるということを示すものと言える。このような点は他の職種の就職活動でも同じことなのである



Table2 X年11月17日時点での振り返りの回答

1. 今回の学習会について、主催者は「(1) しっかり継続的に学ぶ」「(2)実際の試験内容や形式を意識して学ぶ」「(3)つながりを持って学ぶ(孤立しない、楽しみも持つ)」という3点を考慮して実施しましたが、それぞれについてあなた自身はどの程度できたと感じましたか。

(1) しっかり継続的に学ぶ

(5 とてもできた 4 だいたいできた 3 少しはできた 2 あまりできなかった 1 ほとんどできなかった)

●5/5/5/5

(2) 実際の試験内容や形式を意識して学ぶ

(5 とてもできた 4 だいたいできた 3 少しはできた 2 あまりできなかった 1 ほとんどできなかった)

●4/5/5/5

(3) つながりを持って学ぶ(孤立しない、楽しみも持つ)

(5 とてもできた 4 だいたいできた 3 少しはできた 2 あまりできなかった 1 ほとんどできなかった)

●5/5/5/5

2. 今回の学習会について、C-learning を利用して様々な情報を提供・共有しましたが、あなた自身はどの程度役立ったと感じましたか。また、ご自身の印象に残った情報を教えてください。

(5 とても役立った 4 だいたい役に立った 3 少しは役立った 2 あまり役に立たなかった 1 ほとんど役に立たなかった)

●5/5/5/5

<印象に残った情報>

- 音楽、保健体育、図工、家庭科などの動画。自分一人では、中々調べることのなかったものも、映像をしっかりと見て覚えることができたと思うし、繰り返し見ることができて便利だった。それについて、みんなで感想を言い合ったりしたことが、長期記憶につながったと思う。また、C-learning ではないが世界の楽器のカードや面接練習のための質問カード。カードの形をしているだけで、楽しくできる気がするし、取り出しやすくふとした時に取り組もうと思って便利だった。面接練習においては動画に残していただいたのが、自分のことを客観的に見つめ、改善に生かすことにつながった。みんなで見るのは恥ずかしかったが非常に役に立った。

- 過去問の内容に関する関連資料(体育実技の動画や音楽の曲)。学習指導要領の穴埋め問題。

- C-learning で栃木県・小学校教員採用に関する情報や各種資料などで教育振興計画等をひとまとめになっていたのが、調べる手間も省け、どこに何が載っていたのか頭が混乱せずに確認することが出来ました。また、早い段階で、採用試験のデータベースや試験情報を見たことで、試験に対する心構えができ意識が高まったように感じます。面接、討論、論文、教育原理、法規などのポイントの動画、過去問で出た問題の解説や関連する動画などがあつたことで、復習にもなりました。

- 教育時事について、学習指導要領や令和の日本型学校教育の答申など資料が様々であるので、見ておくべき資料はどれなのか一助になった。場面指導については最も想像のつかない試験だったので、実際のやりとりやポイントに関するサイトを持ってきてくださり、言葉かけや流れなどがとても参考になりました。さらに、栃木県の小学校教員採用に関する情報まとめてくださったおかげで、いつでも栃木県の情報を見返すことができました。

3. 今回のような学習会を次回も行う場合に、必要なこと、改善したほうが良いことなどを教えてください。

3-1 今回の良かったところ(大事なことで変えないほうが良いと思うこと)をお書きください。

- ワイワイ楽しくできる雰囲気。人数を増やすと中々難しい部分もあると思うが、お菓子やスイーツを食べたり、みんなで楽しく会話したりしながら

(次ページへ)

(前ページより)

できたのが良かった。仲が深まり、「みんなで最後まで頑張ろう！」という雰囲気になっていったように思う。また、実際の試験に近い形で自分の力を試せたこと。完全に同じにすることはできなかったが、試験に近い形で何度も試験、論作文、面接練習ができたことが、当日の自信になった。

- 1次試験に関して、過去問を解いた後に模試を多くできたこと。学習指導要領に目を通すことができたこと（一こんなにやったという自信に繋がった）。1次試験・2次試験対策どちらも、難しいと感じる所を全員で共有できたこと（お茶会の交流も含めて）。
- 自由に発言ができる空気感、温かい雰囲気というものが大切だと感じました。私自身は3人とも勉強会前から友達だったので、最初からとてもやりやすい雰囲気での勉強会ができました。
- 発言し合える雰囲気や緊張しすぎない空間がとてもやっていてよかったと感じました。みんなで答え合わせをしたり、覚え方を教え合ったりするなどして気持ちをリラックスさせつつ、試験対策を行っていくところが私自身に合っていたと思います。休憩タイムを入れて、メリハリをつける時間の使い方が良いと思います。

**3-2 変えたほうが、あるいは加えたほうがより良くなるだろうと思うことを下にお書きください。主催者としては、今のところ、2次試験の面接や集団討論、小論文のアドバイスを早期に行い（例えば3月のうちに）、4～6月の時期にも月に2回程度実施したり、就職支援室で行う学生自身の練習をしっかりと復習したりすることを考えていますが、そのことについてもご意見ください。**

- 変えた方がよいと少し思うことは、終了時刻が遅くなる日があったこと。あまり言葉にはしていなかったが、家の遠い二人は帰宅が22時頃になることもあり相当大変だったと思う。ただ、集合する都合上、本気で勉強をするならやむを得ないとも思う。
- 2次試験対策を早期に行うことに賛成です。5～6月頃に支援室主催で個人面接ガイダンスや集団討論ガイダンスがありますが、そこでは面接時の挨拶の仕方の確認や集団討論の様子をビデオで確認する程度なので、支援室主催で行われる本格的なものは1次試験終了後という印象です。そのため、面接でどんなことを聞かれるのか、場面指導はどのようなものなのか、どんな集団討論のテーマがあるのか、早めに知っておいて一度経験しておいた、自分の考えをまとめておいたりするといいなと感じました。
- 支援室での学生同士の面接練習にはほぼ毎回参加していたのですが、本番は面接がとても緊張したため、先生との面接練習を増やしてもっと慣れておくとうまいかなと思いました。
- 2次面接対策も早期に行うという点に賛成です。2次試験の内容は自分だけで練習となると難しい部分や分からない部分が多かったため、自信をつけて自己肯定感を上げていくためにも少しでも早期から行う方が良いと感じます。

**3-3 今回のような学習会にはどのような人が参加するとうまいいくと思いますか。チラシを作るときに知らせたほうがよいと思う参加の条件等について、3つほど具体的に書いてください。**

- 1) 教員になるという目標に真剣な人
  - 2) 他人任せじゃなく、自分で成長できる人
  - 3) 協調性のある人
- 1) 仲間と協力し合える人
  - 2) 熱意を持って地道にコツコツと頑張れる人
  - 3) 最後まで意欲的に熱心に取り組める人
- 1) みんなで最後までやり遂げようとする人
  - 2) 楽しく勉強しようとする人
  - 3) 諦めないで頑張れる人
- 1) 一人で教員採用試験対策することに不安であること
  - 2) 集団で学ぶことに前向きであること
  - 3) 教員志望 であること

(次ページへ)



(前ページより)

#### (4. は省略)

#### 5. 今回の学習会について、あなたの印象、感想等について自由にお書きください。

- 私は、特に仲の良い友人が教員志望でなかったこともあり、この学習会がなかったらかなり心細い気持ちになっていたと思う。就職支援室主体の勉強会やセミナーにもそのメンバーが集まって、勉強することができた。実際、仲の良い友人がおらず学生同士の集団討論や面接練習にあまり来ていない、または来づかった人はいたように思う。横のつながりという意味でも、私にとってはありがたい場所だった。勉強内容についても、参考書を買っただけではおさえることのできないところまで丁寧に勉強することができた。映像やサイトを見ながら、先生の話の聴いたり感想を言い合ったりしたのは、印象にも残りやすかった。穴埋め方式のプリントや暗記カードなど、大変役に立った。大学受験時には、動画を見たりサイトを利用したりしていなかったのが、このような勉強方法も有効であることが知れてよかった。空き時間に教職教養の問題動画を見たり、お風呂に入りながらクラシックの曲名当て動画を見たりしていた。周囲の頑張りが直に感じることができたのも力になった。そして、何よりみんなで甘いものを食べた時間が楽しかった。先生には負担をかけてしまって申し訳ない気持ちがあるが、やはりあれのおかげで頑張れた部分もあると思う。全体を通して、大変だったが、充実していたと感じる。一生懸命対策をして受かったことは、教員になってからにも生きると思うし、心の支えにもなると思う。
- 4人全員が同じ熱量、熱意を持って学習会に参加でき、お互いに支え合いながら取り組めたことが本当にうれしかったです。筆記試験の対策をしたり、面接や討論をやったり、論文を書くたりすることは大変でしたが、みんなと一緒にできるから頑張ろうと思ったので、学習会への参加は全く苦ではなかったです。特に、分からないことをそのままにせずみんなで楽しく解決しようとしたことは非常に良かったなと感じています。例えば、クラシック音楽の曲の名前が分からず、家に帰るまでも4人で連絡を取り合って分かるまで調べたときがありましたが、学習会の時間を超えてもなお、みんなで協力して解決しようと思う姿勢が感じられて非常に楽しかったしうれしかったです。また、4人だけではなく先生も含めて共に和気あいあいと学ぶことができたことも非常に良かったなと感じています。2次試験対策の際、特に面接においては、学生同士の練習ではなかなかできない貴重な機会を設けていただいたため、学んでいるという実感がより強く感じられました。場面指導においては、学生同士の練習のみだとあまり自身がもてない状況でしたが、具体的なアドバイスをいただいたおかげで対応できるようになったのではないかと思います。
- 学生リーダーから学習会の話を聞いたときに不安を持っていたのですが、とても楽しい雰囲気勉強することが出来ました。みんなで過去問の答え合わせをしたり教え合ったり、学習指導要領を覚えるためにみんなで覚えやすい方法を考えたりすることがとても楽しかったです。学校に来て勉強、家でも勉強、という中で、辛いな、と思う瞬間があったのですが、同じ内容をやっている人が近くにいることでその辛さを共有することが出来たり、休憩の時間に先生が買ってきてくださるお菓子をみんなで選んだり、コンビニに買いに行ったり、食べたりすることが出来たのが息抜きになりました。学習会の雰囲気は少人数ということもあって、とてもやりやすい環境でした。みんな同じ目標を持っていたので、いっしょに頑張ろうね！という思いが強くなっていきました。今年から、音楽家体英が選択じゃなくなり、出方も対策の仕方も分からなかったのが、自分一人で勉強していたら、とても不安になっていたと思います。その中で先生が、学習指導要領の穴埋めを作ってくださったり、他県の教採の過去問を集めてくださったり、世界の楽器カードを作ってくださったり、自分一人で勉強していたらそういったことまではできていなかっただろうな、と思いました。また、何か分からないことがあった際に学習会の友達や先生に聞いてみよう！と聞ける相手ができたことも大きな安心材料でした。教員採用試験、一次も二次も不安はあったのですが、ここまでやって来たんだ、という思いと、一緒に頑張ってきた仲間がいるということが自信に繋がり、心強かったです。こちらこそ、学習会を開いてくださりありがとうございました。参加できて良かったです。
- 学習会を開いてくださり、本当にありがとうございました。もし一人でやっていたら、ここまで計画的に試験対策を満遍なく進めることは難しかったと思います。1次試験の対策では、栃木県の過去問を解くだけでなく、学習指導要領を見直したり、実技科目は写真や動画を活用して覚えたりして楽しみながら試験準備をすることができました。他の人と一緒に学ぶことで励まされたり、時には自分への危機感を抱いたり、他のみんなも頑張っているから最後まで頑張ろうと思うことができた部分も多くありました。2次試験の対策では、自分の面接練習を動画で見ることが恥ずかしかったですが、客観的に自分を見ることで話し方や癖などを理解することができ、相手への配慮を忘れないことを意識することができました。論文文では参考例を用意してくださり、自分の考えに対する別の表現方法を知ることにつながりました。自分以外の人が読んだ時に納得できるか、筋が通っているかな

(次ページへ)

(前ページより)

どの文章構成は苦手であったので、対策していただいたことで少し自信になりました。一人で面と向かって試験対策をする忍耐力も大切だと思いますが、集団で学ぶことで気持ちの面で支えられることが多いと学習会を通じて感じました。私自身、継続して何かを続けることが難しいと感じていましたが、学習会を通じて試験に向けて知識も気持ちも高めていくことができたと思っています。いつもリラックスして楽しく学ぶことができるように空間を作ってくださいありがとうございました。

が、教員就職率の向上という点を踏まえた時には、教員採用試験に対する主体的継続性が大事になってくるであろう。3つ目としては「協調性、みんなで、仲間、集団」といったような仲間関係の要素である。個人で学ぶことが好みの者もいるだろうし、学生によっては周囲の人はライバルのような意識を強く持つものもいるだろう。しかし、相手とうまく協力して進めるほうが利点は大きく、それは学習内容のみならず精神的健康においてもよいことは、前稿(川原, 2023)から続く振り返りの結果を見ていくと明らかである。どこまでも大きい集団でということは難しそうだが、3-1での「雰囲気」という言葉からも、小集団でコミュニケーションが取れる集団づくりを志向する者にとっては、今回の学習会のような機会は学習面でも心理面でも好ましいと言える。

質問5では今回の学習会についての印象や感想を自由に書いてもらったが、どの参加者も自分のおこなったことや筆者のおこなったことを詳細に思い出して、学習会に参加したことが肯定的な体験であったことを記述していた。また、主催した筆者への感謝の思いを述べていた。先に述べたように2次試験の結果から望まぬ結果になった参加者もいたのだが、その学生も含めて全員が本学習会を肯定的なものとして認知し、成長できたという印象に彩られていることがわかる。

総じて、今回の学習会はこれまでそのような機会があまり見られなかったこともあって、学生の学びを具体的に支援できたものとして意義があったものと推測できる。そして、今後の教員就職に関する支援方法として質・量ともにどのように高めていく可能性があるかを示唆できたと思っている。

## 4.2 今後に向けての改善点

今回の学習会についてさらに改善するとしたらどのようなことになるか。これまでの振り返りの記述からも見えてきたが、「2次試験の対策について早

期に展開すること」が最も大きなことと言えるだろう。今回の学習会では1次試験が終わってからの説明と模擬演習であったが、どのような点が大事になるかについて早期の段階で説明し、理解してもらいながら大学が用意する機会を活用したり、学習会でもチェックしていったりする必要があるだろう。

学習会内で個人面接を練習する場合には録画して綿密に検討することができたが、就職支援室が実施する集団討論の練習については簡単に録画するわけにはいかない。今後、許可を取った上で学習会参加者当事者のみの録画をおこなったり、当事者が参加する討論全体の録音をおこなったりすることで、後に検討するための素材を準備することが丁寧な検討ならびに当事者の客観視につながっていくだろう。

## 4.3 組織的な(大人数対象の)活動に広げることの是非

今回のような学習会が効果的だとすると、できるだけ大人数を対象にしたほうが合格率には寄与できるのかもしれない。しかし、4.1の部分で述べたとおり、振り返りの質問3-1で参加者が触れていた「雰囲気」という点だったり、質問3-3で触れていた主体性や継続性の要素の点だったりを見ると、例えば受験者全員に梓づけるようなことなどは無理であると考ええる。現状でも就職支援室の提供する支援内容を受験者すべては利用していないと感じるし、今回の学習会参加者との会話の中でも就職支援室を継続して利用しているのは同じような人になっているという感想を耳にしている。大学が全員受講も可能に設定している教採セミナーにおいて、受講意欲には個人差があるという話も聞こえてくる。

教員就職率ということ考えた時に、学生側の熱心な学習態度ということは不可欠になってくるが、この点がまた難しいことでもある。今回の学習会のようなものもどこまで対象を広げられるか。「役立ちそうだから」くらいの意識で「つまみ食い」のよ

うな参加をされたら、参加者当人の効果が薄まることもあるし、場の雰囲気を損なうおそれがある。今回の学習会のメンバーは、筆者が信用できるとしてお願いした学生リーダーが、自らが一緒に学べる(学びたい)という基準で呼びかけてもらったものであり、学生の意識は非常に高い人たちであったと感じる。今後は、今回の学習会の学びのポイントを明瞭に示し続けながら、参加者呼びかけの範囲を徐々に広げていき、ある程度の集団規模まで拡大できるような方法も模索したい。

#### 4.4 対面実施の意義について

今回の学習会ではZoomを使つての方法も可能と提案していたが、筆者の大学外の用事でZoomを利用せざるを得ない状況と特定学生の体調不良でCOVID-19の懸念に対するZoom対応の状況とを除いては、ほぼ対面形式での実施となった。遠距離で電車通学する学生もいたが、今回の学習会の参加者の強い希望として対面形式で行われた。

これまでの振り返りの記述からも明白であるが、参加者は仲間関係で進めることをとても好んでおり、休憩時間の茶話会も楽しみにしていた。そのことが試験準備にまつわる不安等も和らげることになり、大学に来ることは自宅学習だけに留まらない生活上のメリハリももたらすことになったようだ。

以上の点を考えると、対面形式での実施は、今回の学習会のようなものを行う場合には基本的なものになるであろう。特に、対面して不安を語ったり、解けた喜びを共有したり、相互に談笑したり、孤立せずお互いの存在を確認できる時間というのは、個人での学習ではなかなか得られない。

ただし、今後人数を増やして実施するような場合には、日時調整の難しさなどもあると予想され、Zoomのような遠隔会議システム等を使った方法も一定割合起きるのかもしれない。しかし、そのような形式になったとしても主体的に参加するような意識が参加者になれば、遠隔システムを効果的に活用することはできないだろう。

#### 4.5 教員の支援の思いと負担や評価との相克

今回の学習会には筆者が多分に関わったが、これは非常に稀であると思う。多くの大学がおこなう採用試験対策の人的対応としては、教職経験者の方をアドバイザーとして招く方法であろう。本学部も実

際に卒業生等の教職経験者の方に依頼しておこなっている。大学教員が関わる方法としては、教職や教科などの単発の講義を担当して行ったりする程度にとどまると思う(本学の教採セミナーも同様である)。

筆者が理想とする対策を考えたときに、学部内の現状では不十分と感じ、他に依頼できるところも見当たらなかったので、負担は大きかったが個人的実践としておこなった。幸い、熱心な学生たちが集ってくれて、筆者が説明する話や筆者の提供する学習内容について熱心に吸収しようとしてくれて、筆者自身も非常に充実した時を過ごすことができた。

しかし、これは大学教員の職務としては認められにくいものである。現在では教員評価で重視されるのが研究業績や研究費獲得であるため、研究論文作成等に時間を割かねばならず、加えて教員養成学部ではそれ以外にも担当授業の多さや学生の実習に関する業務など研究外の活動は多い。いくら教員就職率を向上させることが大事だとしても、そこまでの時間がかかる関与は難しいのが現実であろう。体系的な支援というなら、個人の努力ではなく様々な教員の支援を集合・統合させたいところだが、前記の教員評価の基準を考えると義務のような形をとるべきではない。義務や当番制では、今回の実践で得られたようなやり取りは期待できないからである。

教員就職率は理想と現実の狭間で揺れ動いているし、その支援策も具体性からは程遠く、実際の試験問題を解けたり、面接等の質問に対応できたりする知識や思考力や表現力について改善の余地は大きい。この解消の主体は当然学生自身であるので、学生の能力や努力に頼って何とかできていたこともかつては多かったと感じる。しかし、時代は移り変わり、入学する学生の様子も変化している。採用試験問題の内容はそれほど変化しているようには筆者には見えないが、そこで問われる教養的知識の持ちようについては、以前の学生よりも少なく感じる部分もある。大学入試合格時点での基本的知識量も以前よりも少ないと感じる。このことから引き起こされやすい要素でもあるが、学習の取り組み方において「設定基準が甘い」と感じる部分もある。誤解の無いように申し添えておくと、全ての学生が上記にあてはまるということではなく、あくまで全体的な平均値的な比較をした場合である。

今回、半年にわたる実践をおこなって、その時々

の受験生の不安というものを直接感じ取ることができた。そのことについて、不安等を支援室等で吐露するといったカウンセリングの対応も当然大事で、長期的視点での心理的支援は基盤となる。しかし、このような不安というのは「できるようになった」という実感が当の本人になれば、なかなか払拭することはできず、成長にもつながらない。その点では現実的な対策を通して具体的に指摘し、学生本人に動いてもらうことが問題中心の対処になる。大学がどのように早期から継続的に実際の採用試験問題にアプローチさせて、意識させるか。多忙な中でも教員側も工夫することが大事であるし、また、そのような取り組みを教員の一定の活動として評価してもらうことも肝要だろう。

れる方も、参加された皆様の今後のお仕事を応援しています。

2023年3月31日 受理

## 引用文献

- 幻冬舎 GOLD ONLINE (2021). 都道府県「教員採用倍率」ランキング…低倍率で問題の県は？ Retrieved from <https://gentosha-go.com/articles/-/31709> (2023年3月30日)
- 川原 誠司 (2023). 実際の教員採用試験に即した教職志望学生への具体的支援 (1) —支援の背景と1次試験に向けた支援— 宇都宮大学共同教育学部教育実践紀要, 10.
- 川原 誠司(2018a). 学校教員志望学生の公的スピーチに関する教育的実践 (1) —講座開設の動機と講座の概要— 宇都宮大学教育学部教育実践紀要, 5, 349-352.
- 川原 誠司 (2018b). 学校教員志望学生の公的スピーチに関する教育的実践 (2) —講座を受講した学生の検討や内省を基にした考察— 宇都宮大学教育学部教育実践紀要, 5, 357-360.
- NHK (2022). 残業月90時間 学校がもう回らない…教員不足全国2800人の現実 Retrieved from <https://www3.nhk.or.jp/news/html/20220802/k10013747241000.html> (2023年3月30日)

## 付記

今回の学習会に参加し、振り返りの調査に協力してくれた学生の皆様に感謝します。受験に向けての学びはとても大変だったと思いますが、皆様の熱意で私自身もとても充実した時を過ごすことができました。学校教員として活躍される方も他所で活躍さ



Specific support for students who aspire  
to be teachers corresponding to real teacher  
employment examination (2) :  
The support for secondary examination  
and general discussion

Seishi KAWAHARA